

広島大学におけるコーディネーション機能について

広島大学障害学生支援のためのボランティア活動室 田中芳則

1. 背景

広島大学では現在、全学体制で障害学生の就学支援を行っています。これまでも障害学生本人や友人・同級生、そして一部の熱心な教職員が支援者の確保とそのコーディネートを行い、就学上の支援をしてきましたが、本来の勉学や教育・研究業務、事務仕事と兼務して行わねばならず、その負担は大変大きく長期間行うことは困難でした。

例えば、視覚に障害のある学生には点訳した資料や文字を拡大した資料を用意したり、聴覚に障害のある学生には授業へノートテイクを派遣したり、そのほか授業担当の先生方へ相談・交渉に行くことなど、障害のある学生と授業担当教員との間に立って、連絡・調整・場合によっては調停等、さまざまな仕事がありました。平成 12 年 4 月に全盲の学生と高度難聴の学生が 2 人同時に入学することとなり、それをきっかけに学内での支援体制の構築と専任でコーディネートを行う職員の必要性が示唆されました。

2. 方法

平成 3 年の大学設置基準の大綱化により、規制が大幅に緩和され、それ以後広島大学では教育研究の整備・改善がなされました。平成 9 年には教養教育改革が行われ、部局長会議の中に全学体制での障害学生就学問題検討部会(現在、障害学生就学支援委員会)が作られました。さらに平成 10 年には障害学生を支援する大学規則も作られ、これにより障害学生を受け入れる体制が整いましたが、平成 12 年に重度の障害学生 2 名が入学したことで、実際の運用上、就学支援に関わる学内の関係者が緊密に連絡を取り合って効率よく機能していかななくてはならないことが明らかとなりました。そして同年 9 月には、障害学生に対する情報支援やボランティア学生グループの調整をはかるために『情報支援コーディネーター』が配置されました。

障害学生に支援が必要であるというニーズがボトムアップし、大学のトップ決定機関である部局長会議からトップダウンで全学体制が構築されていったわけです。

3. 活動内容

全学における活動の拠点として、教養教育の約 8 割を開講している総合科学部内に「障害学生支援のためのボランティア活動室」があります。ボランティア活動室には支援者育成のための実習指導を行う障害学生支援担当教員と、支援学生・障害学生・教職員への連絡・調整と相談を行う情報支援コーディネーターが勤務しています。情報支援コーディネーターは障害学生の授業における情報保障の要望聴取や講義室での座席指定の調整依頼、教員への障害学生受講の連絡や配慮のお願い、実習後のボランティア学生をノートテイクとして派遣するコーディネート等を障害学生支援担当教員と協力して行っています。

4. コーディネーションシステム構築の条件とサポート環境

システム構築には、①障害学生(当事者)からのニーズが明確であること、②物事を検討する組織やコーディネート等をするための人材が必要不可欠であること、③実行のため予算措置が必要であること、が条件としてあげられます。とくに①が重要で、当事者からの意見が大学当局に通れば、スムーズにことが運びやすいと思います。また組織については、全学的な組織であれば、各部署の理解を得やすいと考えられます。人材についてはなかなか専任で置くことはむずかしいですが、当初は教職員が兼務で対応し、マニュアル化を進めることで、担当者が変わっても引き継ぎを滞りなく進め、いずれ専任の担当者を置くようにすべきでしょう。

なお条件が出そろふことで、おのずとサポート環境を整備しなくてはならないことに気づくであろうし、大学当局に気づかせることが重要であると考えます。

5. システムづくりへの助言

広島大学はボランティアセンターを設置しているのではなく、ボランティア活動室という名称にして設置し、コーディネーション機能を持ち、部局を越えて支援学生・障害学生・教職員への連絡・調整等の役割を担っています。これは大学内でのボランティアに関する組織が「センター」という名称のイメージから、責任の所在が一極集中するのではないかと懸念され、大学内の各部署間のコーディネートを阻害するのではないかと考えられたからです。ボランティア活動室は、実質的な仕事としては「ボランティアセンター」の役割を果たしていますが、各部署での責任を明確にし、連携して支援活動を行い、それらをコーディネートしていくことができれば問題はないと考えています。

また平成 15 年度からは大学職員の新人研修の研修先にボランティア活動室を入れていただき、障害学生への窓口対応についての講義をし、パンフレットを配布していますし、チューターの先生方の勉強会(年1回)にも障害学生の全学支援体制の資料を配布して、これまで関わったことのなかった先生方への啓発活動も行っています。支援には、いろんな方が関わるのが大切です。



ボランティア活動室の役割: 就学支援の相談窓口、学生と教職員の交流の場、
支援学生の育成の場、情報機器による支援、障害学生の自習室